



駅舎の隣にある「稲田姫の像」

きすき
木次線ストロール⑥

出雲横田駅

「社殿風の駅舎と

くしいなだ

奇稲田姫の生誕の地」

2月22日木曜日、朝の9時過ぎに車で庄原の自宅を出た。営んでいる古本屋の2月休業で、定休日の月・火曜日以外にも取材ができるのはありがたいが、天候が悪い日が多く、その日も朝から小雨が降っている。

10時過ぎに八川駅に到着。10時21分発の木次行きに乗車。乗客

はわたしだけで、警沢な貸し切り状態だが、さすがに行く末が心配になる。田園地帯を走る線路は踏切も多く、汽笛が頻繁に響いた。6分程で出雲横田駅に到着。トンネルが一つもなかった。

出雲横田駅の出雲神話にちなんだ愛称は「奇稲田姫」。八岐大蛇（やまたのおろち）の生贄になるとこ

ろを素戔鳴尊（すさのおのみこと）にたすけられて妻となる。古事記では「櫛名田比売（くしなだひめ）」、スサノオの智略で姫を櫛に変身させて難を逃れたという伝説がある。駅舎の外に出て右側に、「稲田姫の像」が立っている。駅舎は昭和9年（1934年）開業以来の姿を保っていて、屋根は入母屋造（いりもやづくり）、壁は校倉造（あぜくらづくり）。寺社の宝物や経典などを納める倉庫に見られる建築様式で、奥出雲町の重要文化財に指定されている。正面玄関には立派なしめ縄が

飾られていて、神社の拜殿のような佇まいだ。別棟のトイレや自転車置き場のデザインも古風で趣がある。

相対式ホーム2面、線路2線を持ち、列車の行き違いが可能な拠点駅の一つであり、木次・宍道（しんじ）方面への始発便も出ている。簡易委託駅で、委託された駅員が窓口業務を担っている。待合室には観光用のパンフレット、「出雲横田駅周辺」の地図を見ながら散策した。

古い町並みが残っていて、レトロな建物を見て歩くだけでも楽しい。旧横田町農業振興センター、旧山陰合同銀行横田支店の本町会館横田相愛教会等々。斐伊（ひい）川の橋を渡って、「泡無酵母発祥之碑」の前に出た。

横田には、1712年からの蔵を構えた簸上（ひかみ）清酒という蔵元がある。明治43年に、町内の酒蔵を吸収合併し、当時この辺りが簸上三郡と言われたことから「簸上正宗」の称号となる。そして、「泡無酵母」発祥の蔵元として知られている。

日本酒製造に使われる従来の清酒酵母は「高泡形成」という特性がある。アルコール発酵の過程で発生した炭酸ガスの気泡に酵母が付着し、発酵が進むにつれてもろみがかき高くなっていく。もろみがタンクから



発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン: ROUTE183
協賛：九日市愛好会